

研究報告

白梅学園短期大学ホームヘルパー(2級)

養成講習会4年間の評価

関谷栄子、西方規恵、森山千賀子、関口久美子、伊藤環、天野洋子

(以上白梅学園短期大学)、安井浩一郎(東村山市社会福祉協議会)

はじめに

本学では、平成元年に保育科に福祉専攻科を開設し、介護福祉士養成を開始したのと機を一にして地域に開かれた学園を目的に、近隣自治体などに協力してホームヘルパー講習会を実施している。本学のヒューマニズム精神にのっとり質のよいホームヘルパー教育を目指してきた。平成10年の福祉援助学科開設以降もその精神を引き継ぎ、すでに15年以上にわたり年間100名を超える2級ホームヘルパー養成に貢献している。さらに平成12年度からは、本学心理学科においてホームヘルパー資格科目(家庭介護総論、演習、実習)を開講し、社会人との統合教育として独自の要素を加えた養成教育を行っている。レクリエーションなど本学独自科目を加え充実を図った。講師陣には、本学専任、非常勤講師に加えてホームヘルパー講習に熟達された非常勤講師を招くとともに、介護福祉士資格をもつ福祉専攻科修了生の協力を得て教育の質の向上に努力している。

開設後4年を経過したので、講習会の教育効果を評価するために講習修了者に郵送調査をおこなった結果、評価できる要素が明らかとなったので報告する。

1. 調査の目的

本学で実施しているホームヘルパー講習について、修了者の評価を求め講習会の学び、介護に関する自己覚知、自己変革の様相、講義や施設実習の学びについて検討を行い講習会の評価、改善の課題を明らかにして今後の方向性を考察する。合

わせて受講後の動態調査を行いホームヘルパーや介護職としての定着の度合いを知ることを意図した。

2. 調査対象

平成12年度以降の本学のホームヘルパー講習会修了者250名、および東村山市社会福祉協議会(以下H市と略す)による委託講習の修了者160名計410名

回収率 回答数本学88名(33.8%)、H市69名(43.1%)合計157名 全体回収率(38.3%)
以下の分析は必要に応じ本学とH市に分けて述べる。東村山市社会福祉協議会のホームヘルパー講習は介護実技のみ受託しているためである。

3. 調査方法及び調査期間

自記式調査を郵送法により行った。調査項目は属性、受講時の職業、現在の職業、講習の内容および運営、実習、事前オリエンテーション、今後に学びたいこと、講習で印象的だったこと、受講による自己変革についてである。調査のねらいは講習内容の評価および改善課題、受講生のホームヘルプに対する自己の意識変革の有無について把握し事後評価とするためである。平成16年2月-3月

4. 調査結果

1) 属性、年代、性別、受講前の職業の有無

表1のとおり年齢構成は10代4名、20代24名、30代20名、40代46名、50代38名、60代は22名であった。10代から60代と50年の年齢差間に分布している。性別では男性は9名、女性が146名と圧倒的に女性が多い。男性は少ないが、

定年後の第二の人生を模索している人や他業種からの転換を考えて資格取得を目指しているなどの学習動機の明確な人が見られた。20代以下の28名のうち27名が本学学生である。

講習以前に有職か否かについては表2に示す。

有職者がH市34名(49.3%)本学30名(34.1%)とH市の方に有職者が多い。本学では学生が26名含まれていることが有職者の少ない原因である。無職では主婦がH市では31名(44.9%)、本学で28名(31.8%)を占め、生涯教育の要求の反映と考えられる。

社会人と学生との統合教育の場では、相互に刺激あい適度の緊張感がみられ教室の雰囲気はよかった。クラス運営が円滑になるように自己紹介、グループ討議などを取り入れた。主婦層は数十年ぶりの学園生活を楽しみ、質問も多く授業態度も真剣であった。学生にとっては、さまざまな年代層や経験豊富な社会人と接することにより視野が広がり、かれらの経験を参考にして自己の生き方を考える機会となった。無職の36名の中にはすでに作業所やガイドヘルパーなど福祉関連現場において活動をしている人が含まれており、キャリアアップを目指していた。1級ホームヘルパーや介護福祉士国家試験に挑戦する人もいる。

2) 受講後現在の職業

受講後に訪問介護に従事している人は表3に示すがH市が27名(39.1%)、本学は19名(21.6%)施設介護に従事している人はH市11名(15.9%)、本学では3名(3.8%)である。H市ではホームヘルパー養成には受講後にホームヘルプ活動への参加を勧めていることから高率になったと考えられる。受講前に介護職員としての職にあったものはH市では5名(7.2%)、本学では4名(4.5%)であった。このほか介護の補助者やパート職員と思われる人はH市19名(27.5%)、本学17名(19.3%)である。受講後の介護に関する関与の仕方を見るとH市では45名、本学27名である。さらに家族の介護はH市6名、本学11名である。受講後にさまざまな形ではあるが、介護に携わる人

はH市45名(68.9%)本学37名(40.2%)であった。ほぼ受講前に比較し倍増していることがわかる。介護以外の職についている人はH市では19名(25.7%)、本学では27名(29.3%)である。受講後に何もしていないはH市が4名(5.4%)で本学は28名(30.4%)であった。

本学の場合は、ホームヘルパー資格取得をしても、福祉職ではない就職を選んだ学生も多い。その理由として、漠然とした福祉への関心があったが、受講後は自分が福祉職に向いていないと気づき方向変更をしたというものがある。実際に実習先などで自分の適性を知る機会となり、進路の自己決定につながっている。(表14-2 自分の変化)

表4には訪問介護員として勤務している人の所属事業所を示すが、営利企業19名、社会福祉法人15名、NPO団体8名、その他6名である。表5に勤務条件を示すが、常勤は13名、非常勤33名と非常勤職員がほぼ3倍ある。表6に勤務年数を示すが、3年以上の人は9名(18.8%)、1-3年は19名(39.6%)、1年未満が20名(41.6%)である。定着率の低さは勤務条件を反映していると考えられる。月平均収入は表7に示すが10万円以上は5名(11.1%)、6-9万円は4名(8.8%)、4-5万円は12名(26.7%)2-3万円が10名(22.2%)、1万円台が10名(22.2%)である。非常勤職員の率が多いことが影響していると考ええる。1箇所の事業所だけでは収入が足りず、複数の事業所に席を置いている例もある。待遇の劣悪なことは他の調査等でも指摘されているが、(参考文献久谷175-178 2003)本調査においても明らかである。

3) 講義の感想は表8に示す

講習会の中で最も評価が高かったのは「講師が熱心である」というものがH市では81.2%、本学でも58%の人が評価している。講師陣のホームヘルパー講習に寄せる熱意が直接に伝えられ、受講生の意欲と結びついたものである。また現場で働いている講師の講義も説得力があり、ホームヘルパーへの志向を高めることに貢献したと考えられる。第2位は施設設備のよさである。H市で6

6.7%，本学で 63.6%の人が評価している。機械入浴の設備や車椅子などの介護用機器に直接触れる機会をもつことの重要性が明らかである。第3位は学習環境がよいというもので、50%の人が評価している。第4位は講義内容の充実をあげている。講師陣もわかりやすい授業をするように努力していることが反映されている。当事者の活用については回数が少ないため、評価は低かった。

4) 運営の工夫については表9に示す。

学習成果を定着するためにレポートを毎回課している。A4サイズ1枚に感想や学びになったことを自由記載で提出を求めている。受講生の負担になることが危惧されたが、H市(46.3%)本学(54.5%)とも評価が高かった。自己の学びを確認する機会となった。講師のコメントをいただき返却していて受講生の励みになっている。

講習会担当の事務職員が継続的に講習会の運営に携わり、受講者の出席確認や受講にかかわるきめ細やかな対応をしている。これについて理解し評価している人は本学では 68.1%，H市においても 36.2%に上る。健康管理や受講環境の整備、やむなく欠席した場合の補習計画など、資格取得のための支援を行っている。個別相談が必要な場合には科目担当教員とも協力し援助している。講師との折衝や受講生からの信頼もあり、講習会の質を維持するために、一貫して運営にかかわるコーディネイト機能は重要である。

講習会を通して信頼できる仲間ができたという声が多くある。講習会で仲間や友人ができたというものがH市 43.5%，本学 46.6%である。講習会終了後に同窓会を開いてほしいという声もH市 23.3%，本学 28.4%の人からあげられている。ホームヘルパーは一人で活動する孤独な仕事である。自分の技術や知識を振り返るための組織的な場がほとんどない。現在本学では、修了者に対するサービスとして同窓会をもち年間1・2回の勉強会を催している。

5) 実習の学び、受講生への支援

実習は受講生にとって、ストレスが大きく精神

的緊張が最も高く精神的負担も大きい。一方では対人援助者としての自己成長の機会ともなり、実習後の反省会では「対人援助に自信がもてた」「自分が気づけなかったことがわかりよかった」などという感想がある。受講生の満足度は表10に示す。「満足」、「やや満足」を加えるとH市では 82.6%と高率である。本学は 67.9%である。「どちらともいえない」がH市 7.2%，本学 17.9%である。「不満」と「やや不満」をあわせるとH市 7.2%，本学 10.2%である。本学においては「どちらともいえない」がH市より 10%多く、「不満」もやや多い。

実習の感想を求めたものは表11に示す。「職員が親切」はH市 34名(49.3%)，本学 36名(40.9%)，「丁寧に教えてもらえた」はH市 37名(53.6%)，本学 29名(33.0%)が多くを占め、「精神的に緊張した」はH市 24名(34.8%)，本学 39名(44.3%)である。不満の中には見学が多く手が出せないことをあげたものが本学 5名(5.7%)，H市 2名(2.9%)あった。実習期間が3日間では見学中心の実習となることはやむをえないと考える。

統合教育のよさを生かして学生と社会人の組み合わせにして支えあうことができるよう配慮している。必要があれば担当者が実習先に出向いて支援し、トラブル発生時には調整するなど実習施設との連携強化に努めている。小さな苦情も見逃さず施設と学校との信頼関係の維持に努力している。

ホームヘルパーとの同行訪問の結果は表12-1.2.3に示す。満足、やや満足の合計はH市 50名(72.5%)，本学 70名(79.5%)と高かった。同行訪問に携わっていただいたホームヘルパーのかたがたの在宅介護に対する熱意や技能からの学びが大きかったことがわかる。不満、やや不満はH市 3名(4.3%)本学 6名(4.3%)であった。その理由としては在宅介護の困難さや収入の低さをあげている。

6) 講義に関する要望

講義に関する要望は表13に示す。実技、障害者の心理、医学知識など専門知識や実技関係の技

術が多い。調理技術やコミュニケーション技術などの生活技能もある。調理技術は、ホームヘルパー2級には含まれていないため、要望があれば何らかの対策が必要であろう。

7) 自由記載にみる講習の学び、自己変革

表14に示す。自由記載の中には大きく3つのグループがある。すでにホームヘルパーや施設介護で活動している人はキャリアアップをめざして上位の資格取得に挑戦しようとしている。主婦層では介護技術を学び家族介護に役立てている。学生は、ひとつには進路選択のため、もうひとつは高齢者や障害者に対する意識の変革に役立っている。学生の一人は、介護職ではなく販売職についてたが高齢者の接客の際に介護知識が役に立ったと述べている。高齢者や障害者に対する見方が変化し、話を聞いたり見守るようになったというものもある。ホームヘルパー講習会で身につけた介護技術や障害者や高齢者に対するコミュニケーションスキルに自信をもてるようになっていく。対人援助技術は、介護以外の分野でも広く応用できる。生活技術としてさまざまな場面に役に立つ技となって身につけ自己に内面化されている。

5. 考察

調査項目に基づいて考察を加える。受講後の講習生の感想から判明した講習会による教育効果を考える。①講師陣の熱意、②実習体験による自己覚知、③受講生同士の交流と励ましにより、④ホームヘルパーおよび介護職員としての自己変革が生まれ、何らかの形で介護にかかわっている人が増えている。一方学生の一部は⑤介護職員としての不適性を自覚し、適切な職業選択をしたとの自己覚知がみられた。また⑥介護職員ではなくとも関連分野の就職先を得た場合でも、介護の知識・技術が何らかの形で役に立っていることが判明した。将来的に、介護職員として活動することを考えているものもある。

第1にはホームヘルパーとしての成長があったこと。

受講生は講習会の講師陣の熱心な授業および実習体験によりホームヘルパーの社会的意義について理解を深めた。ホームヘルプに対する熱意および現場体験から発信される事業への熱い思いと実践が受講者に直接伝えられる。福祉現場で実践者から触発させられ、ホームヘルパーの仕事に意欲がわいた。さらに1級講習を受けてみたいとの向学心が盛んになった。講習を通じて利用者の気持ちが変わり相手の立場にたって考えられるようになったなどヘルパーとしての資質向上に役立っている。ヘルパーの得意分野を広げたい。自分の考えを押し付けることが強かったが相手の求めることを理解しようと努力しているなどの自己変革の様子が自由記載に見られた。

第2は講習終了後何らかの形で介護に関係している人が多い。

ケアセンターに勤めて、利用者から「死ぬまであなたに来てもらいたい」といわれて感激したものの。「親から無理といわれたががんばればできると教えられた、ヘルパーの仕事が好き」というものの。介護ではない職業に就いたが車椅子の人に接するとき自信が持てたというもの。

第3は仲間ができたこと。半年間の継続的なかわりの中で仲間に出会えたという声も多い。一人で働くことが多いホームヘルパーにとっては信頼し合える仲間ができ、悩みを共有し相談できるようになった。ホームヘルパーとしての勤労意欲を高め、連帯感ができ精神的安定が得られる。

第4はホームヘルパーの講習会においては、社会人と学生との統合教育の効果が現れているといえる。年齢構成の幅広さ、社会経験の多彩さにより受講生同士がお互いの特徴を発揮して刺激しあい学びあいの場が作られた。クラス全体が家庭的な雰囲気をかもし出し相互交流の機会があった。社会人も学生の感性に感動する場面もあり相乗効果が見られた。

第5には施設設備の充実がある。

講義内容の充実を図るために、実物や最新教育機材の導入など常に工夫が行われている。介護機

器の紹介や実演など百聞より一見という実物教育のよさが発揮されている。設備を整え維持管理するために、多くの方々の努力に支えられていることを特記したい。

第6は本学の教育理念であるヒューマンイズム精神の実践である、受講生一人ひとりを尊重する精神が生かされており受講生の個性を尊重し、一人ひとりに目の届いた教育支援がされている。個別対応が必要な受講生には担当事務職員が継続的に対応し支援しており、必要があれば教員や施設関係者との連携指導がされている。特に実習条件の整備には留意し実習施設との信頼関係を深めて連携を維持していくことを重視している。必要があれば直接施設に出向いて支援する。実習は受講生まかせにせず学校が教育責任を負う姿勢が重要である。手間がかかる講習会ではあるが、かけた手間の重さだけ、受講生にも伝わるのを確認できる。受講生の人間成長にかかわり、自己変革を見守ることができるのは教育に携わるものの責務であるとともに喜びでもある。

また単なる家事援助技術提供だけにとどまらず、地域福祉の援助者集団の一員として社会的地位の向上と待遇の改善を目指すことも課題である。修了生の要望でもあるホームヘルパー間の横のつながりを深め、職能団体の発展も支援する責務がある。本学学生および市民の生涯学習要求にこたえとともに、これまで蓄積された介護福祉援助技術の精度化をはかりホームヘルパーの職能発展にも寄与していきたいと考えている。

まとめ

ホームヘルパー養成講習に関する評価として、社会人と学生との統合教育、地域への貢献度、受講生の学習意欲と自己変容、講義内容、講師陣、施設、受講生へのサービス、実習施設との連携関係などをみて質的に高いといえる。さらにホームヘルパーの社会的地位の向上への貢献についてはなおいっそうの努力が必要である。今後も講習の質を維持し、向上させるための不断の努力が必要である。

終わりにあたりご協力いただいた受講生の皆様および施設、在宅介護の現場の関係各位に深く感謝いたします。

参考文献：

1. 久谷興四郎 介護労働 現場からの叫び 日本リーダーズ協会 2003 P175～P178
2. 牧坂英敏 ヘルパーにもいわせて 日本評論社 2002
3. 篠崎良勝 ホームヘルパーのイメージ調査 日本医療企画 2000
4. 鳥羽信行, 森山千賀子著 ホームヘルパーのための対人援助技術, 萌文社, 2003
5. 石田一紀, 泊イクヨ, 藤田博久著 高齢者精神障害者ホームヘルパー, 萌文社, 2001
6. 京都福祉サービス協会編集委員会, ホームヘルパー活動事例集, ミネルヴァ書房, 2002.
7. 植田美津江, 6人のケアマネージャーと介護保険KTC中央出版 2001
8. 高橋道子, 介護を生きる, 春秋社 1998

訪問介護員講習(2級) 調査2004. 2.

発送数410通 回収数157通回収率38.3%

表1年代別受講者数

年 代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明
全 体	4(2.5)	24(15.2)	20(12.7)	46(29.3)	38(24.2)	22(14.0)	1(0.6)

表2 講習前の仕事

	仕事あり	仕事なし
H 市	34(49.3)	35(50.7)
本 学	30(34.1)	58(65.9)

表2-2仕事内容

	会社員	事務員	自営業	フリーター	介護職員	その他	計
H 市	0	4(5.8)	4(5.8)	1(1.4)	5(7.2)	19(27.5)	33
本 学	1(1.1)	3(3.4)	2(2.3)	4(4.5)	4(4.5)	17(19.3)	31

ガイドヘルパー、作業所介助員など

表2-3仕事なし

	無 職	主 婦	学 生	
H 市	5(7.2)	31(44.9)	0	36
本 学	3(3.4)	28(31.8)	26(29.5)	57

表3. 現在の勤務状況

	家族介護	介護ボランティア	介護以外	なにもしていない	訪問介護員	施設介護	
H 市	6(8.7)	7(10.1)	19(27.5)	4(5.8)	27(39.1)	11(15.9)	重複回答
本 学	11(14.1)	4(5.1)	27(30.7)	28(31.8)	19(21.6)	3(3.8)	重複回答

表4.訪問介護の種別

訪問介護	社会福祉法人	N P O	医療法人	営利企業	その他	無記入	
H 市	14	5	0	8	3	1	重複回答
本 学	1	3	1	11	3	3	重複回答

表5.訪問介護の勤務条件

	常勤	週 1 日	2 日	3 日	4 日	非常勤	週 1 日	2 日	3 日	4 日
H 市	8	1	3	2	2	17	0	4	5	7
本 学	5	0	1	0	4	16	2	5	5	4

表6.訪問介護の勤続年数

	1ヶ月未満	1-6ヶ月未満	6ヶ月-1年	1-3年未満	3年以上
H 市	1	7	5	9	5
本 学	0	5	2	10	4

表7.訪問介護の月収

	1万円代以下	2-3万円	4-5万円	6-9万円	10万円以上	無記入
全体	10	10	12	4	5	4
%	22.20%	22.20%	26.70%	8.80%	11.10%	8.80%

表8.講習の感想-3個まで

	H 市	本 学	合 計	%
講師が熱心	56	51	107	68.2
施設設備がよい	46	56	102	65
学習環境がよい	35	48	83	52.9
講義内容が充実	31	42	73	42.9
内容が理解しやすい	34	31	65	41.4
現場の声が聴けた	3	35	38	24.2
ビデオ	3	5	8	5.1
当事者の声が聴けた	1	6	7	4.5

表9.講習の運営について-3個まで

	H市	69対%	本学	88対%
レポート作成があった	32	46.3	48	54.5
事務職員の対応がよい	25	36.2	60	68.1
欠席した場合の補習対策	14	20.3	20	22.7
終了後の同窓会	16	23.3	25	28.4
仲間づくり・友人が出来た	30	43.5	41	46.6

きめこまかな個別対応	10	14.5	14	15.9
その他	2	2.9	5	5.7

表10.実習－施設実習

	H市	69対%	本学	88対%
満足	30	43.5	24	30.8
やや満足	27	39.1	29	37.1
どちらともいえない	5	7.2	14	17.9
やや不満	3	4.3	7	8.9
不満	2	2.9	1	1.3

表11.施設実習の感想

H市	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
職員が親切	20	14	2	3	0
介護の質がよい	15	9	0	0	0
丁寧に教えてもらえた	23	14	1	0	0
自分も働きたい	9	5	1	0	0
事前刈エーションがよい	6	4	0	0	0
見学が多く手が出せない	2	5	1	2	2
忙しい	10	9	1	1	0
精神的に緊張	11	13	3	2	0
利用者とのコミュニケーションがとれない	6	5	1	1	1
その他	6	2	3	3	1

表11.施設実習の感想

本学	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
職員が親切	23	13	6	1	1
介護の質がよい	10	5	3	0	0
丁寧に教えてもらえた	16	13	3	0	0
自分も働きたい	9	6	0	0	0
事前刈エーションがよい	7	11	1	0	1
見学が多く手が出せない	2	5	6	5	0
忙しい	6	11	2	2	1
精神的に緊張	19	20	11	5	0
利用者とのコミュニケーションがとれない	6	10	5	3	0
その他	3	9	2	1	2

表12-1.同行訪問実習

	H市	69対%	本学	88対%
満足	31	50	39	44.3
やや満足	19	27.5	31	35.2
どちらともいえない	11	15.9	11	12.5
やや不満	1	1.4	4	4.5
不満	2	2.9	2	2.2

表12-2.同行訪問の感想

H市	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
在宅介護はよいと思う	20	12	5	0	1
在宅介護は困難が多い	5	10	4	0	2
利用者本位である	6	6	2	1	1
連携の重要性	15	10	4	0	2

チームワークの大切さ	14	5	3	0	0
訪問介護員の大変さ	13	8	6	1	1
訪問介護員が生き生きしている	9	7	0	0	0
収入の低さ	3	1	4	1	1
訪問介護員が親切	20	10	4	1	0
丁寧に指導してもらえた	18	9	3	1	0
自分も働きたい	6	2	0	0	0
見学が多く手が出せない	0	1	1	0	2

表12-3.同行訪問の感想

本学	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
在宅介護はよいと思う	24	14	3	1	0
在宅介護は困難が多い	6	10	1	0	1
利用者本位である	10	8	3	1	0
連携の重要性	18	17	5	4	0
チームワークの大切さ	17	9	5	2	0
訪問介護員の大変さ	18	15	3	0	0
訪問介護員が生き生きしている	15	10	1	1	0
収入の低さ	5	1	4	0	1
訪問介護員が親切	21	20	5	2	1
丁寧に指導してもらえた	19	13	0	1	1
自分も働きたい	5	3	2	1	0
見学が多く手が出せない	0	1	2	0	0

表13もっと学びたい項目(5個)	H市 人	%	本学 人	%
医学知識	27	39.1	31	35.2
高齢者・障害者(児)の心理	33	47.1	37	42
コミュニケーション	26	37.7	21	23.9
介護技術の実習	37	53.6	31	35.2
社会福祉の知識	15	21.7	13	14.8
連携技術	4	5.7	4	4.5
医療との連携方法	10	14.5	11	12.5
家政学	1	1.4	2	2.3
調理方法	15	21.7	20	22.7
福祉用具の知識と応用方法	15	21.7	20	22.7
ホームヘルプの専門性	13	18.8	10	11.4
事例検討の方法	7	10.1	6	6.8
困難事例の検討	8	11.6	8	9.1
難病のケア	5	7.2	5	5.7
精神障害者のケア	11	15.9	17	19.3
介護保険の知識	12	17.4	17	19.3
ケアプランの立て方	8	11.6	10	11.4
ケアマネジメント	4	5.8	10	11.4
訪問介護の実際	10	14.5	11	12.5
家族の調整	5	7.2	14	15.9
障害者等の当事者の声	7	10.1	11	12.5
福祉現場との交流	10	14.5	14	15.9
その他	2	2.9	2	2.3
無記入	3	4.3	8	9.1

表14-1 自由記載 講習会で印象的だったこと

H市

年代、職

自由記載

40代 な し	心の優しい方と知り会えた。自分と同じ考えの方と会えた。生き生きと福祉で実践しておられるかたを知り触発させられた。
40代 ありその他	レポートが大変だったが丁寧な扱いが次のがんばりにつながった。企画者に感謝。
50代 主 婦	40年ぶりの学びに毎回緊張と楽しさがあり苦にならなかった。
60代 ボランティア	講習を受けた皆さんが前向きで価値観が同じだった。してあげられる喜びを感じた。楽しく学び楽しく実践している。利用者に喜んでいただき役に立てる喜びを感じる。

本学

20代 主 婦	実技の先生の講義が印象的で今でも技術をよく覚えている。ユーモアを交えて相手が傷つかないように、聞いている人の興味が薄れないようにしてくださりよかった。ズバッとわかりやすく指導してくれた。
20代 学 生	先生が現場で体験された話や出会った人のことなど具体的なことはよく覚えている。現場の状況がわかりやすく聞けた。
40代 その他	実習初日に不安いっぱいとき朝早く事務担当職員が同行してくださったので安心した。
40代 主 婦	介護をしながらの受講だから精神的にも介護する側される側の思いを理解できた。終了前に亡くなってしまったのは残念だ。もっと多くの方に受講してほしい。
40代 主 婦	いろいろな分野で活躍している方と出会えた学生と一緒に学んだ。チームワークの重要性、学生の方との対応、感性を教えてもらえた。もっと話を聞きたい。
50代 その他	久しぶりに学生になり若返った。同級生との交わりも楽しくレポートは大変だったが勉強する楽しさは味わえた。学生食堂の昼食も楽しかった。
50代 自 営	今思えば無我夢中で過ごした6ヶ月でした。現在はボランティアでかかわっているがいつかは生かした活動をしたい
60代 主 婦	現場で実際に仕事をしている講師の話は充実している。時間が足りずパタパタ進んでしまう。施設で今まで習ってきたでしょうといわれ、身についていなかったのが戸惑った。実習をもっと増やしてほしい。事務の方が明るく親切でよかった不安感をなくすことができた。

表14-2 自由記載 講習会で自分が変化したこと

H市

30代 主 婦	介護を始めて2年目だが、自分にはまだ不足な面があるので春から1級をとりに行く。
30代 その他	専門の先生の知識や経験から多く学べた。熱意ある先生から意欲を起こさせられた。レポートより講義をもっと聴きたい。身近に介護の問題はなかったがまったく新しい分野で仕事に生かした職場の研修で生かした。
40代 介護職	すばらしい講師と講義内容。実技の時間に一人ひとりが学習できるよう配慮してくださった。
40代 介護職	幅広い年齢層の人と学習できて貴重な経験でした。いろいろな方の介護に対する思いや人生の捉え方を知り今の仕事（デイサービスの送迎）に役立っています。まだまだ学び続けなければいけないと勇気がでます。
40代 事 務	自分に変わりはないがホームヘルパーについては意識が変化した。単なる手助けでなく専門的なことを学んで確立された専門だと理解した。

40代 その他	町でも杖歩行の人や車椅子の人お年寄りに目が行くようになった。たぶん今までは目に留めなかったのだと思う。
40代 自 営	体験は大事だ。講義ではいろいろな場面を想定し、対処の仕方を考える実験的授業を受けたかった。営利ではない介護を期待する。
40代 その他	講義を受けるまでは家事なら何とかなるかかもしれないと思っていた。初日から考えの甘さを思い知らされた。レポートを書きながら奥の深さに驚き学生以来久々に勉強した。大変だったけれどどんどん引き込まれた。いろいろな角度から見られるようになった。あっという間の4ヶ月。素敵な先生や仲間と学ぶことができた。講習を無駄にせずこれからもがんばる。
40代 主 婦	オムツ体験をしてオムツをした人の気持ちがわかってよかった。仕事に生かしている
40代 小規模作業所	同じ仲間ができたのがうれしい。内容が濃いので吸収しきれないが前向きに取り組もうと意欲につながった
40代 主 婦	ベッド上での洗髪、オムツ体験が貴重な経験だった。久しぶりにノートを取りよい緊張感があった。講師が熱心だった。毎日を大切に生きようという気持ちが強くなったヘルパーで得意とする分野を広げたい。
40代 自 営	科目終了時に講師と意見交換したい。他の人の考え方がわかる時間もほしい。介護に関する意見交換をしたかった。体験は大事だ講義ではいろいろな場面を想定し対処の仕方を考える実験的授業を受けたかった。営利でない介護を期待する
50代 介護職	講習前はやり方が適切でなく時間ばかり過ぎた。受講後は排泄介助などやりやすくなった。ヘルパーとしての知識、認識がついた。
60代 主 婦	施設実習で若い人が熱心に働いているのを初めてみた。高齢者が排泄や食事をすべて人手を借りなければならぬのを見てショックだった。自分の親も痴呆が進んでいる。一人でがんばらないでヘルパーの助けを借りることも学んだ。何らかの役に立てたい。
60代 自 営	何か人に役立ちたいと思い参加した。週3回家事援助に入る利用者とのコミュニケーションをがんばる。
60代 主 婦	障害者や高齢者への接し方がわかった。心理がわかった。怖がらずに向き合うことができるようになった

本学

10代 学 生	高齢者や障害者が毎日大変な努力をしていることが身をもってわかった。寝たまま食べさせてもらおうと苦痛だった。どうしたら気持ちよく楽しんでもらうか自分でも考えたい。
10代 学 生	自分に自信が持てた。親からも無理だと言われたががんばればできると教えられた。ヘルパーの仕事が好きだ。
10代 学 生	シーツ交換が役に立った。卒業後病院に勤めたのですぐに役に立ちうれしかった。
10代 学 生	福祉の仕事に就こうかと思ったが精神的に受け止められないと思い一般企業にした。逃げたのではなく適職を見極められた。福祉と向き合っている人を尊敬します。
30代 その他	介護とは関係がない職業についたが車椅子の人や介護が必要な人に接するとき少し自信が持てている。

40代 主婦	ホームヘルパーは重要だと思うが、実務的にこなしお金をいただくことに抵抗を感じた。時間に限られることが切ない。自分はヘルパーにならないと思うが自身の周りが介護が必要になったら勉強したことで心から対応したい
40代 その他	来年は介護福祉士の試験を受けてみようかなと思う
40代 主婦	久しぶりに机に向かった勉強できて日々の生活に張りが持てた。充分自信になった。充実した5ヶ月間だった。講師の経験談に感動した。目的を達成できて
50代 保育士	受講と同時に両親や義父母の体調が悪くなり介護をしながらの学びだった。受講後は介護生活で半月ごとに地方と東京を遠距離介護している。受講内容が役に立った。広く介護についての知識や認識を深めたい。
50代 パート	施設実習であまりよいことがなかったがあるきっかけで昨年よりケアセンターでお世話になっている。利用者から「死ぬまであなたに来てもらいたい」といわれ資格をとってよかったと思った。
60代 主婦	母の対応にやさしくなれた。自分の腰に負担がかからないようにできるようになった。今は保育の仕事をしているがいつか前向きに考えたい。ホームヘルパーに関心を寄せるようになった。
60代 その他	現在ヘルパーの仕事をしている。高齢者の気持ちがわかるし、相手の立場に立って考えられるようになりよかった
60代 その他	自分の考えを人に押し付けることが強かったがまず相手の求めることを早く理解しようとして努力している。